



7がつあおろくみだよい



連日厳しい暑さが続いておりますが、子ども達は元気一杯です。進級してから3ヶ月が経ち、年長児としての過ごし方や生活リズムが分かり、落ち着いて過ごすことが増えてきました。

先日より、天気について学習遊びをしています。梅雨入りし、雨が続いたので、傘をさして散歩に行きました。水たまりに入ったり、鉄棒にできたしずくを指で触ったり、しずくがついた蜘蛛の巣を見てその綺麗さに感動したりと雨の日にしか見れないものを見て楽しみました。また、「雨が降ってきたから洗濯物入れなきゃ」「ただ今、風で飛ばされています」とりポーターになったりと天気で学んだ知識が遊びにも表れています。

また、今月の後半にはよいよお泊まり会が控えています。初めて親元を離れるということで、今、楽しみと不安の両方の気持ちを抱えている子が多いことでしょうか。今年は河川環境楽園へ行き、夜のお楽しみ会でも楽しい出し物を計画しています。園生活の楽しい思い出となるよう、職員一同協力していきます。

★小学生になるための20の階段★ 〈今月のテーマ:整理整頓〉

身の回りのことが自分で出来るようになり、生活の流れがスムーズになってきました。行くペースに個人差があるので、一人一人が行いやすいよう「ハンカチは入れ替えたかな」「服を畳めたかな」とやるべきことがわかるよう声をかけています。そして今度は、自分で出来ることがより丁寧に行うことを目標にしていこうと思います。

①脱いだ服を畳みます

②使ったハンカチを畳んでポケットに入れます

③タオルを畳んで鞆に片付けます

④ナフキンを畳んで給食袋に入れます

⑤自分のロッカーから道具を出したら、出したところに戻します
(乱れたら整える)

⑥使った玩具は元の場所に戻します

①～⑥の6つを目標にがんばります(^_^)



<子ども達が安心して元気に生活できるように、保育教諭が子どもにすること>

- ・高温多湿で疲れやすくなる時期なので必要に応じて水分補給をするように声をかけたり、活動の間に時々休息を入れるなど健康で安心して過ごせる環境を作ります。
- ・プール遊びでは一人ひとりの様子を把握し、その子なりの目標を持って取り組む様子を認めていきます。
- ・友達と関わる中で上手くいかないときに、すぐに解決を促すことなく、お互いの意見の相違を一緒になってじっくり考え、言葉で伝えられるよう後押ししていきます。
- ・お泊まり会を不安に感じている子どもがいるので、活動内容を具体的にイラストや寸劇でわかりやすく伝え、見通しを持ち、期待を持てるようにします。
- ・畑で育てている夏野菜が美味しく食べられるよう、野菜について話をしたり、一緒に調理する機会も作ります。



〈子どもの遊びや教育的活動〉

- ・プランターで育てている百日草に毎日水をあげることで、自分の百日草に愛着を持ち、植物に興味を持ちます。
- ・短冊作りをする中で、七夕の行事に興味をもったり、その由来について知ります。
- ・プール遊びの中で自分の目標に向かって取り組んだり、水の危険について学びます。
- ・友達と互いに思いを伝えたり聞いたりしながら遊びを進めます。
- ・お泊まり会を存分に楽しむ中で、友達との絆を深めたり、家族から離れ一人で泊まることに達成感を感じます。
- ・戸外遊びの中で、休息や水分補給の大切さがわかり、健康に過ごせるように工夫します。



〈お願いします〉

- ・水遊び、泥遊びをする季節になり、着替えも増えています。園にある着替え袋の確認、持ち帰った分の着替えの補充をお願いします。**ビニール袋も不足しますので、汚れ物を持ち帰りましたらその都度補充をお願いします。**
- ・手洗いの後、ハンカチがなくて困っている子を見かけます。ポケットがある服を着用するか、移動ポケットをつけていただき、毎日、ハンカチ、ティッシュを持たせて下さい。
- ・プール遊びが始まります。まだ髪の毛の長い子が目立ちますので、結ぶなどさっぱりした髪型にしていただきたいです。また爪も短く切り、清潔さが保てるようお願いいたします。



毎日体操がんばっているよ

日常の戸外遊びではつきにくい力（つかむ・ジャンプ・踏ん張る・バランス力）をつける為、毎日体操を行っています。つきたい力によって道具を変え、毎日15分間取り組んでいます。今回はミニハードルを使って、ジャンプする力をつけようと取り組みました。使いはじめの頃は、ハードルの高さに合わせて足を上げるのがやっとなで、ハードルが倒れたり、足がもつれたりしていました。倒したハードルは自分で立て直し、何度も何度も繰り返すことで、ハードルの高さの感覚が体でわかり、ハードルを見なくてもまたぐことができるようになってきました。また、先日のゲームでこんなことがありました。保育教諭が鬼となり逃げきれた子が勝つゲームです。4チームでのリレー競争、保育教諭 対 子ども のゴール決め競争・・・毎日子どもたちはゲームを楽しみにしているので楽しいゲームを考えています。そんな中、Bちゃんはゲームになると端っこにいき「やりたくないから見ている」と言いました。最初は「わかったよ。みんなを応援してくれるかな」と声をかけ見守りました。応援している姿もとても楽しそうでしたが、ゲームの楽しさ、スリルも感じて欲しいと思い「ゲームやってみよう」と誘うとBちゃんに話を聞くと「負けたくないからやりたくない」とのこと。勝ち・負けがはっきりわかり悔しい気持ちが芽生えてきたからこそゲームに慎重になったり敏感になったりするのですね。その気持ちを友達と分かちあえたら少しは楽かなと思い、男子 対 女子のチーム戦に誘いました。乗り気ではなかったものの参加し、男子に負けたのですが友達と「またやりたい、次は勝とうね」と話していました。勝ち負けを繰り返して、負けても次頑張ろう、という気持ちを持つことが出来ればいいなと思います。次は、負けても仕方ないな、でも参加してみようという気持ちになるような誘い方をしたいと思います。